

「横浜を世界に誇るスポーツタウンへ」DeNA社長・岡村信悟の新しい街づくり構想

# 財界

ZAikai  
a Japanese business biweekly

悪者・CO<sub>2</sub>を再利用する  
製鉄法の開発へ  
JFEホールディングス  
柿木厚司が進める  
「脱炭素」戦略

2021 6/23

◎インタビュー  
自民党新国際秩序  
創造戦略本部座長  
甘利 明  
元防衛大臣  
森本 敏  
Olympicグループ  
会長CEO  
金澤 良樹

原発などタブーの多い課題を直視して、「未来選択会議」を設置

本誌非席 村田 博文

「**世界最先端モデルを示せるのは日本の企業人**」  
【**経済同友会・櫻田謙悟の新資本主義論**】  
【**コロナ危機下**】



表紙の人  
テルモ社長CEO  
佐藤 慎次郎  
撮影 齊田 勤



いけだ・よしお  
大阪医科大学卒業。1996年大阪医科大学附属病院形成外科入局。同大学附属病院形成外科病棟医長、東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック開院。04年銀座いけだクリニック開院。現在は東京皮膚科・形成外科総院長の他、東海大学病院形成外科非常勤講師、一般社団法人・JAAS日本アンチエイジング外科学会理事長をつとめる

# 東京・銀座をはじめ、品川、日本橋、大阪、そして今度は麻布十番へクリニックを開業 「人生100年時代の今、美を諦めない、いつまでも若いままでいたいという人たちを応援したい」

「病気で寝たきりの人生を過ごすのではなく、楽しく余生を送るためのお手伝いを」と語るのは、美容医療業界の草分けとして知られる東京皮膚科・形成外科総院長の池田欣生氏。コロナ禍で美容医療の現状はどうなっているのか。そして、東京・麻布十番に新しいクリニックを開業した今、池田氏は今後どのような研究を始めるようとしているのか。

## メイカルダイエットの高齢者需要が増加

現在、東京皮膚科・形成外科は東京・銀座をはじめ、品川と日本橋、そして大阪にクリニックがあるのですね。

池田 ええ。そして今度、麻布十番に『NEW FACE AESTHETIC CLINIC』という新しいクリニックがオープンしました。

わたしはあまり積極展開したいとか、お金儲けをしたいとは思っていません。ですが、スタッフの吉澤秀和先生が夢をもつ

て頑張りたいということで、共同経営という形で応援しようということになりました。

さて、この1年、世界中が新型コロナウイルス感染症の影響を受けているんですが、コロナ禍での美容医療の現状から聞かせてもらえますか。

池田 日本と海外では結構違っていて、米国や英国はどちらかというと、コロナによって自宅にいる時間が増えたというところで、時間のある今のうちに美容整形をしようと考えてる人は多いです。ですから、市場は伸びていて、ヒアルロン酸注入剤な

どを手掛ける英アラガン社は対前年比10%くらいアップしているそうです。

一方の日本では、特に初めの緊急事態宣言があった昨年4月から5月くらいにかけては、不要不急の美容医療は必要ないという世論が高まり、一気に市場が落ち込みました。

ただ、企業でテレワーク（在宅勤務）やWEB会議が増えたことによって、良くも悪くも自分の顔を見る機会が増えましたよね。それで「わたしの顔ってこんなにシワがあったんだ」と感じる人も多くなり、徐々にシ

ワを無くしたいとか、若々しい表情でいたいと考えてる人が多くなってきたように思います。

コロナによって、そういう効果もあるんですね。

池田 ええ。ただ、WEB会議も、パソコン上の表情を変えられることができるソフトが出てい

るらしく、コンピューターの映像技術の進化はすごいなと思いました（笑）。  
それでも、やはり、パソコン上の人物と実物が全然違うのは困るということで、今度は画像加工をした顔になりたい、近づきたいと考える人も増えてきま

した。

それは加工した画像が自分の理想に近いからということですか。

池田 そうでしょうね。昔は憧れのアイドルのような顔になりたいという人が多かったのですが、今はコロナに関係なく、画像加工した自分の姿になりました。

いと考える人が増えてきたようです。だから、今はもともと理想の顔があつて、そこに医療技術を寄せていくという施術が多くなってきたように感じます。

いやはや、何とも言えない時代になりましたね。

池田 実はこの1年、海外ではインスタグラム（Instagram）で自撮りをす

る人の中で、実際の顔と加工した顔が違うというところで、現実とのギャップに悩む人が増えているそうです。

インスタグラムは少し前までは「いいね！」の数を見て、この投稿が人気あるかどうか分かるようになっていて、それが面白かったり

したんですが、最近では「いいね！」の数を気にしすぎるあまり、沢山「いいね！」を押ししてもらおうとして、過激な動画を撮ったりして社会問題化してました。

それで先日からインスタグラムでは「いいね！」を表示しないテストを始めたんです。その背景には、自分の画像を気にするあまり美容整形をさせる方向に持っていくという流れもあると聞きました。

これは特に20代の若い方が中心の話だと思うんですが、30代以上の人たち、あるいは人口の約3割（2020年は28・7%）を占める65歳以上の高齢者の傾向はありますか。

池田 30代、40代の人たちは、若さに対するあこがれというか、今はほとんど高齢社会になつているので、例えば、自分たちが80歳、90歳まで生きると考えたら、あとの人生は50年、60年あるわけですよ。

だから一昔前であれば、「40歳にもなつて何を色目など使っ

ているんだ」と言われていたのが、今は美を諦めない、いつまでも若いままでいたいという人たちは増えてきていると思います。

高齢者に関しては、もともと少ないですが、最近ではメイカルダイエットの需要が増えてきました。生活習慣病を抱えている方は多いです。このコロナ禍で健康でいたいと考える人が多くなっていますからね。

コロナは毛細血管の病気で、あることが分かってきましたから、糖尿病や血管が弱い人は気を付けなければならぬということ、ダイエットを始める人が増えてきたように思います。

これはコロナがあつたことで、もともとダイエットをしないでいいかと考えていた人たちが、背に腹は代えられないというか、真剣にダイエットをしなければ危ないと思えるようになったのではないのでしょうか。

## 日本の医療が遅れるターニングポイントとは？

—— ところで、医療の専門

家ということですが、なぜ、池田さんは日本から国産ワクチンが生まれないのだと考えますか。

**池田** 生まれにくいというよりも、わたしの知り合いの大阪大学の教授がすでに早い段階で「m（メッセンジャー）RNA ワクチン」というワクチンを製造しています。でも、幸か不幸か、日本は海外に比べてコロナ患者を抑え込むことに成功したので、患者さんがいなくて治験ができなかった。あとは海外でワクチンが承認されたので、治験の数が少ない日本製ワクチンよりも海外のワクチンを優先せざるを得なかったんです。

例えば、米国ではワクチンを製造した時に軍人さんが治験者になるので、もしもそれで亡くなったら「国のために頑張ってくれてありがとう」という文化があります。

しかし、日本は治験のデータをとるのが難しく、一人のデータをとるだけでも、ものすごい時間がかかるんです。これで認

可が下りにくいという問題はありますよね。

これは考え方の違いだと思うんです。米国は常に戦争を想定しているの、仮に治験で亡くなったとしても、実際の戦争が起って何万人が死ぬのを彼一人の犠牲によって救われたんだという考え方をしますが、日本では仮に1人でも死んだら大変なことになりますからね。

—— 今回もワクチン接種が早いのは米国やイスラエルでしたね。

**池田** イスラエルは新型コロナウイルスを抑え込むのがとても早く、自分たちが治験データを提供すると言って、その代わり、大量にワクチンを確保したわけです。

本日は今もワクチンの予防効果と比べて、自分でも研究した方がいいなと考えたのです。—— なるほど。お父様の思い出で記憶に残っていることは何かありますか。

**池田** 父はわたしによく幸せだと感じていました。祖父が陰徳を積んだからだと感じていました。

昔は国民皆保険制度ではなかったの、お金を持っている人は医療を受けることができるけど、お金を持っていない人は医療を受けることもできなかった。だから、祖父はお金持ちの人からお金をいただいていたんですが、お金のない人からお金をとらなかつたそうです。そういう姿を父は見ているので、今のお前があるのは祖父のおかげだよと言ってました。

陰徳というのは、人に知られず、ひそかにする良い行いのことです。人に良く見られたいから良いことをするのはなく、

つたら使うなどなる。この違いですね。

**池田** 今はワクチンを世界中が奪い合うような状態になっていて、よくマスコミの人たちは「なんで日本はこんなにワクチンの数が足りないんだ？」と議論していますが、世界から見たら日本は感染者の数も死者の数も少ないんだから、死者の多い国に優先的に渡すのは当たり前ですよ。

だから、本当はこの辺のことを政治家が言わないといけないと思います。

—— 本当ですね。政治家にも官僚にも「俺が責任を取る」と言える人がいない。

**池田** 1990年代に薬害エイズ訴訟がありましたけど、あのようにならなくて、自分たちの責任が問われるということ、リスクのあることは止めようという方向に進んでいった。厚生労働省も簡単に新しい薬の許可を出さないようになりました。

わたしは、あれが日本の医療

が遅れるターニングポイントになったような気がします。

### 「陰徳を積む」という言葉

—— ところで、池田家は医師の家系だそうですが、池田さんが医師を志すようになった動機を教えてください。

**池田** もともとは祖父が佐賀県伊万里市で外科医をしていて、父が高校2年生の時に急に亡くなったんですね。すると、それまで毎日のようにいろいろな人がやって来て、裕福に生活していた家庭環境が一変し、貧乏になった途端、誰も池田家に寄り付かなくなったそうです。

その時、父は、人は良い時は寄ってくるけど、悪くなると寄ってこない。そんなことがあっていいのかと憤りに近い感情を抱いたようで、自分が医師になって見返してやるというか、池田家を再建すると思えました。

そこから父は必死に勉強して九州大学医学部に入學し、医師になりました。医師になってか

らも勉強して、立派な論文を発表したりして、わたしにとっても尊敬する存在でした。

しかし、そういう話ばかり聞いていたものだから、幼い頃のわたしの印象は、「そんなに貧乏になるなと言わなくていいのに……」という、どこか違和感もあつたんです。

—— ということは、池田さんが子供の頃は医師を目指してはいなかった。

**池田** ええ。わたしは高校生くらいまでは物理学者にでもなろうと思っていました（笑）。父は特に反対しなかつたんですけど、物理の研究をして、大企業でそれなりに成功した人たちを連れてきてくれたんです。

父はわたしが抱いている夢を果たした人がどうなっているのを見せたかったのだと思うんですが、企業の中ではそれなりにいいポジションにいるけれども、メチャメチャいい生活をしているわけではない。

だからわたしは、現実には研究者になつたところで厳しいなと

人の見ていないところで、良いことをするのだと。そういう祖父の姿を父は子供ながらに見ていたようで、それはわたしも感じていたところなんです。

—— それはいいお話ですね。それが池田さんの原点になっている。

**池田** ええ。父は80歳まで現役の医師として働いていました。でも、やっぱり仕事がないと一気に老け込み、昨年1月に84歳で亡くなりました。不思議と、医師には自分が研究していた疾患で亡くなるというリンクスがあるのですが、父も脳梗塞で倒れたのです。

やはり、人は仕事がなくると一気に衰えると思うんです。女性は趣味が多いからいいのかもしれないけど、男性は特に仕事がなくるとダメですね。だから、最近では自分もそうです。死ぬまで働いた方がいいと思うようになりました。

—— キヤノン会長兼社長の御手洗富士夫さんやキッコーマン名誉会長の茂木友三郎さんは

80代半ば、信越化学工業会長の金川千尋さんは95歳ですが、まだまだ元気ですよ。

**池田** そうですよ。特に今は人生100年時代ですから、60歳、70歳でリタイアしたら残りの人生どうするんだ？ ということになってしまっています。だから、長生きはできるようになつたけど、つまらない人生や病気で寝たきりの人生を過ごすのではなく、楽しく余生を送るためにどうすればいいの？

父から遺されたことは、歳だからとあきらめるのではなく、脳梗塞を治せるようにするにはどうしたらいいの？ という質問を今自分の専門である若返りという視点に立ってどうすればいいの？ という宿題を与えられたような気がしています。

いくら長生きしても、脳梗塞で手が動かない状態で残りの人生を過ごすのでは楽しくありません。わたしは残りの人生をかけて血管の再生問題を解決していきたいと考えています。